課題解決型授業（主体的・対話的で深い学び）に関する調査研究プロジェクト

第４回　合同会議

１　日　時　　平成３０年６月２７日（水）　１６時１０分～１６時５０分

２　場　所　　旭川市立朝日小学校　図書室

３　参加者　　上川教育局義務教育指導班主査　　成田　　仁
旭川市教育委員会教育指導課課長補佐　常盤　慎一
旭川市立朝日小学校　　木下　俊吾，三浦　一路，福嶋　顕勝，
櫻井　啓子，宮腰　唯導，石塚　泰鑑，
近田　歩実
旭川市立知新小学校　　増田　展明
旭川市立新町小学校　　伊月真由美
旭川市立中央中学校　　成田麻友子，三上　貴也
小樽市立菁園中学校　　山本　俊次
帯広市立柏小学校　　森谷　栄介

４　内　容

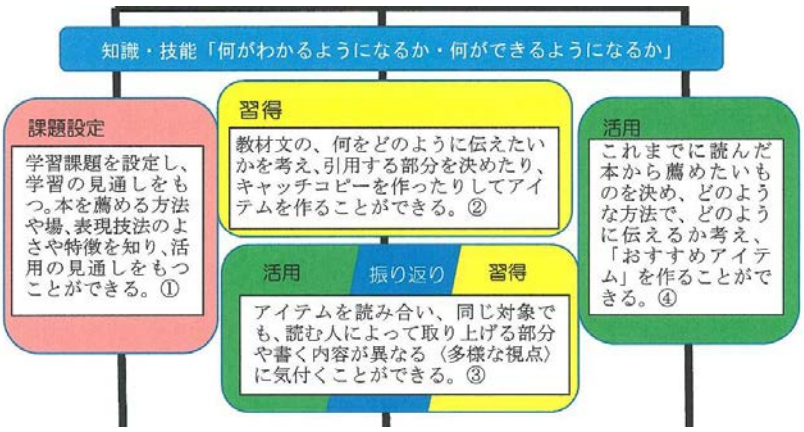
(1)　今年度の研究内容と本日の授業について

「子供が主体の学習」を実現する授業づくりを検証するために，「単元デザイン」と「子供自ら学びをマネジメント」の視点で，朝日小の６月研の授業（４年社会科，５年国語科）について協議を行いました。

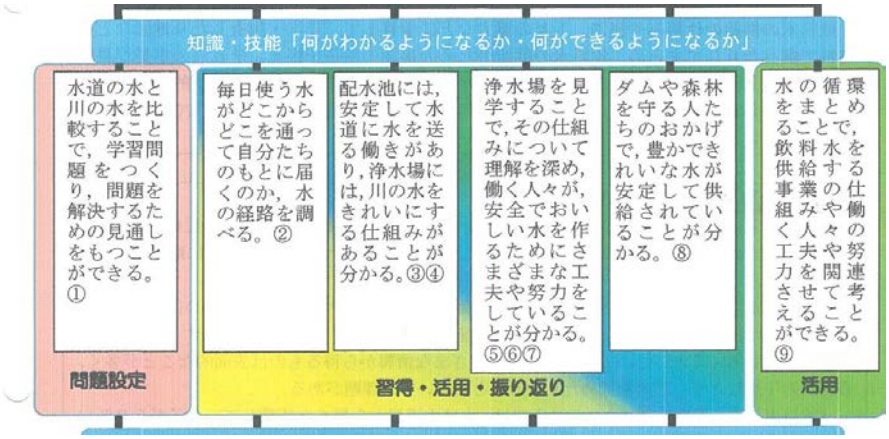
□　実践推進校の説明

単元をデザインする際に，「何のために」「何を」学ぶのかを子供自身が分かっていることを重視し，「習得ー活用」をユニットとしてつなぐプロセスの中で，子供が「使うために学ぶ」ことを意識しながら主体的に学ぶことができるように，構成を工夫しました。

５年生の国語科は，「学んだことを使う」ことを意識し，単元マップ上では，緑（活用）・青（振り返り）・黄（習得）のマーブルで表現してみました。



４年生の社会科は，学習の見通しをもたせた後，「習得・活用・振り返りがスパイラルで積み上がっていく」イメージをグラデーションで表現しました。



単元デザインとして，このような組合せがあってもよいのではないかという提案型の授業です。

①　参加者の声　～「単元デザイン」にかかわって

○　４年生の社会科は，今までＡＬＰＳで研究してきた成果が生かされ，単元の見通しをもつための事象との出会いが効果的でした。

ただし，（単元の）学習問題については，単元全体が見えてくるように，更に文章の吟味をしてもよいでしょう。

子供たちがなんとかして解決してみたいという気持ちを引き出すには，やや弱かったのではないでしょうか。例えば，「水の故郷とゴールはどこだ？」といった発問でもよかったでしょう。

○　５年生の国語科は，子供たちから出た言葉をもっと効果的に取り上げることもできたのではないかと感じました。教師のアシストによって，（子供の）当たり前の発言を「すてきな考えだな」と（周囲の子に）感じさせたいですね。

○　４年生の社会科では，どのように解決していけばよいのかと（解決の）順番を考えていくとき，川や施設の写真，付箋紙などを用意し，グループで写真や書いた付箋紙を動かしながら検討するのも，一つの方法だと思いました。

もちろん，教師は，子供の思考の流れに対応できるように，（複線的な）手立てを明確にしておく必要があります。

○　今回の授業は，今年度の研究内容の確認となりました。どちらの授業も，単元（の中で児童の思考）が流れていて全体像もよく見えました。

一方，「習得 - 活用」に関しては，学年に応じて段階的なものが必要だと感じました。

②　参加者の声　～「子供自ら学びをマネジメント」にかかわって

○　「パフォーマンス・シート」（学びの成果を実感できるシート）は，子供が自分の学びの立ち位置を確認し，もう少し頑張りたいという気持ちや友達からのアドバイスを参考にしたいという気持ちなどを表し，次の学習への意欲化を図るものです。

　ですから，どの先生でも子供の発達段階に合わせてつくることができるようにしていきたいですね。

○　「パフォーマンス・シート」については，様々なイメージがあります。ゴールを山の頂上に例えると，今日は何合目（問題解決の進度）までを目指すのかを自己決定するというのが一つです。

　これは自分の学びが中心で，速く歩く子もいればゆっくり歩く子もいて，それぞれの進度が変わってくるため，教師としては事前に把握し，手立てを準備しておくことが大事になります。

　もう一つは，１合目から２合目までを登ること（本時の進度）は全体で決めておき，個人で頑張るのか，仲間と一緒に頑張るのかなどを判断させる方法です。

○　「パフォーマンス・シート」に書くときには，視点を絞るのも大事な一つの方法として考えています。例えば，友達の意見を参考にするという視点で自分の学びを振り返ったり，今日の学習への理解の深さという視点で振り返ったりするのもあると思います。

○　視点を絞らなくてもよいのではないでしょうか。それぞれの子供が自分に足りない部分を意識し，もう少し頑張らなければと思うことが大事で，小中の９年間で（総合的に）育てるというイメージはいかがでしょう。

　自分で学びをマネジメントするのは，高学年の子供たちでも難しいこと。マネジメントの意味がだんだん分かってくるようになり，中学校で花開くような感じでよいのでは。教師は意図をもって単元デザインをしますが，この形がベストというのはないと思います。

○　子供が自身の学びをマネジメントすることが大切ですが，（その学びは）授業をデザインする教師の考えの範ちゅうにあると言えます。

　ですから，自ら学びをマネジメントしているように自然と子供に思わせられるかが，教師の腕の見せ所です。「パフォーマンス・シート」の汎用性を高めるためにも，小１～中３まで，おおよその視点（観点）のようなものがあった方がよいのではないかと考えます。

⑵　小樽市と帯広市の取組の現状について

○　小樽市では，「主体的・対話的」に目を向けて研究を進めていています。今の段階は，一単位時間の授業に照準を当てたものになっています。単元のデザインについては，これから取り組んでいきたいと思っています。「パフォーマンス・シート」については，現在，ルーブリックのような形のものを作成している最中です。

○　帯広市では，子供が「主体的・対話的」に学ぶことを目指した研究をしています。例えば，対話は何のために，また，どのような形で授業に組み入れるのが有効かなどを研究しています。授業の過程では，見通しと振り返りを重視して実践を重ねています。

5　助言

(1)　旭川市教育委員会　常盤課長補佐より

○　先生方対象の研修会のワークショップでは，「子供の学びの姿」と「教師の手立て」とを大きな軸にして，本時レベル，単元レベルでどのように授業をつくっていけばよいのかを，付箋紙を使いながら討議をしています。

子供の学びのマネジメントについての単元レベルでの話し合いが，今後とても大切になってきます。（他の研修会などでも）このことについて，先生方ともっと話し合っていきたいと考えています。

(2)　上川教育局　成田義務教育指導班主査より

○　新学習指導要領の大きな変更点は，資質・能力をベースとして書き換えられたことです。これを達成するための学びの在り方が問われています。子供たちの資質・能力を高めるためには，どのような手立てが必要なのか考えていきましょう。

資質・能力を高めるために，教科等横断的な学習に注目が集まっていますが，教科の特質や学習内容を意識する授業も忘れてはなりません。資質・能力ベースの授業と学習内容ベースの授業を，子供の学びのマネジメントの視点でバランスよくつなぐことが大切です。常に子供の学び（思考の流れ）を振り返りながら学習を進めていってほしいと思います。

また，ここで学んだことを各学校で還元するとともに，小樽市，帯広市も含めて，広域に広げていただきたいです。